



## 命の神秘さ体験

黒崎小学校（浅野博道校長、児童16人）は12月4日、同校で「生命誕生の不思議さ」と題して採卵受精実習を行いました。普代村漁協の下道勇次さんらの手

ほどきを受けながら、真剣なまなざしでゆっくり卵を取り出します（写真）。20～30秒以内に素早く精子をかけて優しくかき混ぜ受精。子どもたちは、サケの不思議を通し「命の貴さ」を学習する体験は、昭和57年から毎年この時期に行われています。

村政懇談会が昨年の十月二十九日、太田名部を皮切りに、十一月五日までの延べ五日間、村内十一会場で行われました。懇談会には合わせて九十六人が出席、活発に九十四件の提言が寄せられました。すぐ取り掛かれるもの、時間を必要とするものなど提言の内容はさまざまですが、村ではできるだけ来年度予算に反映していくことにしています。

鳥居地区「写真」では、十一月五日、午後五時三十分から一時間、地区の方々約二十人が参加し、深渡宏村長、坂下洋一助役、新沼敏哉教育長に地区の問題を提言していました。

## 村長へ活発に提言



## つくり育てる漁業目指して



12月8日、村では普代村漁業協同組合（太田俊史代表理事組合長）の協力を得て、全日本漁港建設協会会長大島登さんを講師にお招きし、「海の幸を活かす港町づくり講演会」=写真=を開催しました。

講演会は、深渡宏村長ほか漁業関係者約100人が参加。「つくり育てる漁業」の積極的な推進、漁業に夢と意欲を持った担い手の育成、漁港・漁村の総合的な整備、ハセップ方式導入流通体制の整備、消費と販路拡大など、さまざまな観点から今後の方向性を探る講演となりました。

参加者たちは、真剣な表情で聴き入っていました。